

わたくしと渡嘉敷島

渡嘉敷漁業協同組合

藤原史明

1. 地域の概況

本村は、沖縄本島那覇市の西方32キロメートルの洋上に位置し、大小10余の島からなり、渡嘉敷島以外は無人島であり、総面積19.1平方キロメートルである。

渡嘉敷島は、人口700名、東西2キロメートル、南北9キロメートルの島のほとんどが丘陸地帯で、中央の低地に集落が点在し、山間部の急斜面が海岸線に迫り、海岸には岩礁が多く、珊瑚礁に囲まれた良い漁場となっている。また、島のほとんどが沖縄海岸国定公園に指定され、自然環境保全が図られていて、海の美しさは世界屈指で年中ダイビングに来る若者達でにぎわっています。

そして、渡嘉敷島の海にはザトウクジラが毎年冬から春にかけて回遊してきます。1月～4月にはホエールウォッチング船で鯨のダイナミックなパフォーマンスが見られ、冬場の観光の中心となりつつあります。

2. 漁場の概要

本村の漁業は、かつて鰹漁業が基幹産業として村経済の基盤をなし「ケラマ節」の名は今をもって賞賛されている。

鰹漁業の廃業以来、村の漁業は総じて衰退し、現在は組合員64名、うち正組合員38名、准組合員26名で構成され、漁業形態としては、主にパヤオ漁業、近海での曳縄、一本釣、矛突、追込網漁業等が行われている。

3. グループの概要

わたくしの所属する追込網グループは夏場は民宿やダイビングショップをやっているが、観光客の少ない冬場には5～6名でグループをつくって追込網漁をやっている。これは漁獲量の少ない冬場の地域の需要をみとすためと、みんなの助け合いによる、生活収入を得るための、冬場のゆいまーるです。

4. 活動課題選定の動機

わたくしは、沢内村という岩手県の山奥である岩手県と秋田県の県境で、2メートル以上の雪の中でうもれて生活しなければならないところで生まれました。

海といえば300キロメートル～400キロメートル車で走ったところに透明度のないコンブだらけの海がある。また、テレビの中でしか見られないひざしの強い太陽、青くすきとおった美しい海、白い砂浜、わたくしの知らない生活がその中にありそんな生

活にあこがれ夢見ていました。そして日本一周旅行がきっかけとなり、その夢の生活が渡嘉敷島にあり島の魅力にとりつかれ、島に住みつくことを決心したわたくしは、島の人からヤマトーとして半信半疑の目で見られながらも、今では漁師として信頼を受け、若い漁業後継者として島の期待を背負うまでになっており、この誇りをこれから漁業を始めようとする青壮年にやる気をおこさせればと思いました。

5. 実践活動の状況

岩手県で生まれ育ち、地元の高校を卒業し、同時にホテルマンとして就職したが、若いうちにいろいろな体験をし、見聞をひろめておく意味で、ホテルをやめ日本一周旅行をすることを決心し、オートバイで日本各県を回って沖縄県についたときには、旅費が底をつき、困ったわたくしはアルバイト先を探すため職業安定所を訪ね、そこで今後の人生を決めるきっかけとなった、民宿のアルバイト募集が目にとまった。住み込みで3食つきというのがなによりの魅力で、この民宿の所在地が渡嘉敷島だったのである。わたくしは渡嘉敷島にわたり民宿で掃除・洗濯・食事の手伝い、お客さんの送り迎えなど、一生懸命働き、ひと月ほど働いて旅費が工面できたところで旅行を続けることにしました。そして、今度の旅で一番印象に残ったのが渡嘉敷島で、民宿でコマネズミのように働いて宿の主人からかわいがられたことや、人情あふれる島の雰囲気などが忘れられず、22年間生まれ育ったふるさとを離れ、1年後の10月に永住覚悟で渡嘉敷島にまいもどり同じ民宿に雇ってもらいました。

民宿といっても夏場は観光客でいっぱいになるが、冬場はお客さんが少ない。その時、民宿の知り合いの漁師から、冬場の夜のひまのときは、クブシミ（甲イカの放言名）を捕りにいかないかと誘われました。漁をしたことのないわたくしは内心ビックリ、夜の海と聞いてはなおさらのことであった。でも好奇心が手伝い、つれていってもらうことになった。バッテリーライトを腰につけモリをもち海へとびこむ、素もぐりで漁するのが最初は恐かった。白いビニール袋がユラユラゆれているのを見ては、ドキッとしたり、サメが出てきやしないかと思い、うしろを見たり横を見たり獲物を取るどころではなかった。獲物の魚を見ては魚がかみつきそうでモリを打つこともできず、ましてクブシミをはじめて見たときは、こんな大きいイカを見たことはなく、クブシミがおそってきそうでそのまま逃げてしまったほです。

最初の頃は無収穫でした。一週間ぐらいからようやく獲物がとれるようになり、これが漁業者の仲間になるきっかけとなりました。なれてくると民宿のアルバイト代よりもかせぎがよかった。そうすると、よそ者という見方も手伝ってか、組合員でない者がなんで漁をするかという厳しい声が聞こえるようになった。それではと組合加入を申し出たところ、准組合員に認めてもらい、5年前に民宿からも手をひき、その時から専業漁業者としてやっていくことを心に誓い、2年前に船も購入するなどして正組合員にも昇格しました。

でも正組合員への道はけわしかった。よそ者はいつかは帰ってしまうという見方をされ、地元の人よりも厳しい条件をつきつけられた。でもわたくしは渡嘉敷島を愛する気持ちと漁業に対する情熱とそして若さでそれを乗り越え、自分の両手でしっかりと正組

合員の資格をにぎりしめたのであります。

そして、今ではわたくしの師匠や先輩漁師などから、島の伝統的な漁業技術の指導を手取り足取りおしむことなく教えてくれます。そして時には、潜水技術、網の張り方編み方、魚種に合わせた魚の追い込み方、そして漁場の位置など数えきれないほど、その漁法、漁場をわたくし自身が体で体験し、覚え、それをこれからの若い後継者に引き継がせることが、今後のわたくしの役目となります。

そして、そんなわたくしを陰で支えてくれる妻も岩手県から両親の反対をおしきって渡嘉敷島へ呼び寄せ、両親のいない、島の住民だけのささやかな結婚式をしてもらい、住民から大きな祝福をしてもらいました。今では渡嘉敷島で生まれた子供を囲んで、楽しい家庭をはぐくんでいます。

渡嘉敷島で行われている漁業種類としては表-1のとおりですが、同表にこれら漁業の操業方法、獲れる魚種、これら漁業種類に必要な漁業技術及びわたくしが工夫した点などを簡単にまとめてみました。わたくしは、季節にあわせてこれら全部をやっています。わたくしの平成7年度の月別水揚実績と漁業種類別水揚実績は表-2及び表-3に示しました。

最後になりましたが、これまで漁業技術の指導、漁場の位置指導等手取り足取り教示して下さった、わたくしの師匠の玉城氏や組合員の方々、また、無一文のわたくしをバックアップして下さった組合長はじめ役員の方々や、いろいろ相談にのってくれた漁協職員の方々には感謝の気持ちがいっぱいです。

6. 波及効果

若い漁業後継者がいるということで島の活性化が図られ、先輩漁業者からも期待され、今後さらに若い後継者が増えることが期待される。現にわたくし以外に漁業に関心をもつ若者は少なかったが、今では数名の若者が漁に出るようになっていて、漁協としては県外の人であっても、やる気のある人であれば受け入れを考えている。

7. 今後の課題

渡嘉敷島では組合員の平均年齢が60才余と高齢化している。若い漁業者の育成が急務である。また、今後力をいれるべき漁業としてはパヤオ（浮魚礁）漁業と観光漁業である。そして、ただとるだけの漁業ではなく、育て増やすための栽培漁業の推進も今後の重要な課題である。

表-1 漁業種類と操業方法及び必要な技術並びに工夫した点

| 漁業種類 | 操業方法 | 漁獲される魚種 | 必要な技術 | 工夫した点 |
|-------|--|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 追込網漁業 | 5~10名が潜水器をせおい並列に並び左右の袖網の間から真ん中の袋網の中へ魚類を追い込む。 | ぶだい、たかさご あいご、こういか すずめだい。 | 時間的にある程度長い遊泳力が必要。魚種に合わせた網を入れる位置と張り方。 | 遊泳が速くなく遅くなく隊列をくずさないようにした。 |
| 刺網漁業 | ひとけた20メートルの網を20ケタ~30ケタ連結し、魚道を遮断して網に魚類をからませる。 | ぶだい、はた、たかさご、あいご、こういか、いせえび、ふえふきだい。 | 魚道をしる経験が必要である。 | 魚道の幅にあわせて、網のケタ数を調整した。網の糸の太さと色の調整をする。 |
| 潜水器漁業 | ポンペを背負い電灯とモリをもち夜間眠っている魚類をモリで突いてとる。 | はた、たかさご、ぶだい、いせえび、こういか、しろいか、たこ、しゃこがい。 | 長い潜水力が必要である。また、魚を突く技術も必要です。 | 夢中になって深みにいかないよう注意した。 |
| 矛突漁業 | 昼間モリをもち、魚類を突いてとる。 | はた、あいご、いせえび、こういか、しろいか、たこ、ぶだい、めじな。 | ある程度の遊泳力と魚を矛で突く技術が必要で。 | 自分の体に合わせて漁具をつくる。 |
| 一本釣漁業 | 海域で釣針に餌をつけておろし、魚類を釣りあげる。 | たちうお、たかさご はた、まち、あいご ふえふきだい。 | 漁場の位置確認経験が必要です。 | 漁場の位置と漁具の仕様を何回も指導をうけた。オリジナルの仕掛をつくった。 |
| バヤオ漁業 | 水深1,000メートル以上の海域に浮魚礁を浮かべ、そこに集まる魚類をつりあげる | かつお、まぐろ、かじき、しいら。 | 曳縄、一本釣、の漁業技術が必要です。オリジナルの仕掛をつくった。 | 曳縄、一本釣、の技術を身につけるため努力した。 |

図-1 漁業種類別年間操業時期

| 漁業種類 | 操業時期 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|------|----|----|------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|------|--|--|--|--|--|
| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | | | | | | |
| 追込網漁業 | //// | | | | | | | | | | | | //// | | | | | |
| 刺網漁業 | //// | | | | | | | | | | | | //// | | | | | |
| 潜水器漁業 | //// | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 矛突漁業 | //// | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 一本釣漁業 | //// | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| バヤオ漁業 | | | | //// | | | | | | | | | | | | | | |

表-2

平成7年度月別及び漁業種別水揚実績

表-3

| 月 | 金額(円) |
|----|-----------|
| 4 | 315,138 |
| 5 | 678,870 |
| 6 | 367,370 |
| 7 | 315,205 |
| 8 | 347,800 |
| 9 | 292,400 |
| 10 | 203,600 |
| 11 | 404,250 |
| 12 | 545,729 |
| 1 | 302,750 |
| 2 | 445,643 |
| 3 | 437,005 |
| 合計 | 4,655,760 |

| 漁業種別 | 金額(円) |
|---------|-----------|
| 追込網 | 904,440 |
| 矛突・潜水器 | 1,843,198 |
| バヤオ | 1,438,198 |
| 一本釣・その他 | 369,546 |
| 合計 | 4,655,760 |



澤内村位置図



図-2

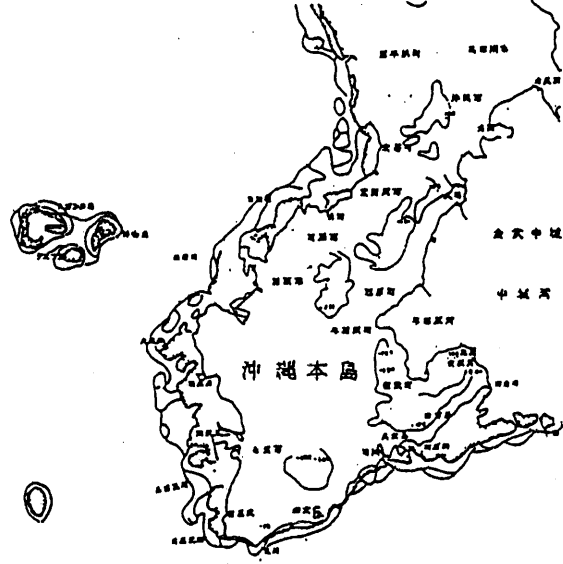


図-3

藤原氏の出身地沢内村位置図

